

【教員氏名】

有川 康二
研究室:聖アンデレ館 6階 624 号室
メールアドレス:karikawa@andrew.ac.jp

【授業形態】

講義

【講義・演習概要】

ONE PIECE のルフィが涙や鼻水を流しながら「仲間がいるよ！」って叫んでるけど、「る」ってちよっと変。なぜ?でも、なんとなくわかる。なぜ?「ゴミ箱」は[gomibako]だけど、[gomihako]は変。なぜ?「やせたロボの飼い主」と「やせたロボと飼い主」では意味が違う。なぜ?「猫が金魚を食べた」は OK。でも、「猫が金魚が食べた」は変。なぜ?「が」とか「を」って何?「が」と「を」について4ヶ月間徹底的に考えます。「が」とか「を」は母なる自然がつくったウイルスです。ヒト脳内の言語システムは母なる自然がつくったウイルスチェックシステムなんです。意味不明でしょうが、授業を受けると分かります(微笑)。「が」と「を」について徹底的に考えるのは、みなさんの人生で最初で最後の経験となります。日本語のネイティブスピーカーは日本語を文法など意識せずに自由に使えます。日本語はアホほど当たり前のことです。アホほど当たり前のことなので、日本語母語話者は、自分は日本語のことは何でも知っていると思ひ込みます。しかし、日本語母語話者には意識できない日本語の音や文法の法則やメカニズム、それがヒト脳内で如何に生成されるかは説明できません(まず、この文の重要性が理解できません)。誰でも脳味噌は使えますが、その法則やメカニズムは説明できません。経験科学の手法を用いてヒト脳の言語システムの法則とメカニズムを探ります。科学は、誰もが当たり前すぎて考えるのもアホらしいと思う事柄に驚嘆することから始まります(驚)。子どもはアホなことに驚嘆できるというすばらしい能力の持ち主です。長年の学校教育で失いつけたこのすばらしい能力を、この授業で取り戻してみませんか?「自然言語(ことばをしゃべる)」というアホらしい現象は、物理学の最重要問題である「重力(ものが落ちる)」や「光(明るい・暗い)」というような一見アホらしい現象と同じように、科学の格好の対象となります。鳥は空を飛びまわります。魚は水の中を泳ぎまわります。植物は花を咲かせまわります。犬は臭いを嗅ぎまわります。私たちヒトはしゃべりまわります。しゃべりまわる生物であるヒトとは、一体、如何なる生き物であるのか?一緒に考えてみましょうか?

【学習目標】

日本語を三つの視点から概論します。(1)生物言語学の視点=ヒト自然言語システムは、母なる自然が創造したヒト脳に突然変異と創発的自己組織化が生じて出現した。その一般的性質とはどのようなものか?(2)日本語教育学の視点=日本語を外国語として学ぶ人々にとって、日本語の客観的な説明、よりよい説明とはどのようなものか?(3)哲学的視点=今この瞬間も時速 10 万 8 千 km(弾丸速度の約 19 倍)で太陽のまわりを公転している地球の表面に重力でへばりつけられて、自分は今ここで何をしているのか?約 138 億年前にできた宇宙の中で、46 億年前にできた地球の上で、38 億年前に生まれた生命のナレノハテとして、何をして、老いて、死んでいくのか?このようなことを日本語でうたうだと考えている自分にとって、日本語とは何なのか?こんなことは大学とお寺でしか言われません(細かいことや最後のことは大学でだけ)。落ち着いて一緒に徹底的に考えてみましょう。

【講義計画】

- 第 1 回:イントロ。「もの」とは何か。「こころ」とは何か。(1)
- 第 2 回:「もの」とは何か。「こころ」とは何か。(2)
- 第 3 回:「もの」とは何か。「こころ」とは何か。(3)
- 第 4 回:「もの」とは何か。「こころ」とは何か。(4)
- 第 5 回:「もの」とは何か。「こころ」とは何か。(5)
- 第 6 回:「よい説明」とは何か。(1)
- 第 7 回:「よい説明」とは何か。(2)
- 第 8 回:「よい説明」とは何か。(3)
- 第 9 回:「よい説明」とは何か。(4)
- 第 10 回:「よい説明」とは何か。(5)
- 第 11 回:言語の構造 (1)
- 第 12 回:言語の構造 (2)
- 第 13 回:言語の構造 (3)
- 第 14 回:言語の構造 (4)
- 第 15 回:言語の構造 (5)
- 第 16 回:脳とコンピュータ (1)
- 第 17 回:脳とコンピュータ (2)

- 第 18 回:脳とコンピュータ (3)
- 第 19 回:脳とコンピュータ (4)
- 第 20 回:脳とコンピュータ (5)
- 第 21 回:ウイルスチェックシステムとしてのヒト自然言語システム (1)
- 第 22 回:ウイルスチェックシステムとしてのヒト自然言語システム (2)
- 第 23 回:ウイルスチェックシステムとしてのヒト自然言語システム (3)
- 第 24 回:ウイルスチェックシステムとしてのヒト自然言語システム (4)
- 第 25 回:ウイルスチェックシステムとしてのヒト自然言語システム (5)
- 第 26 回:復習と Q & A
- 第 27 回:復習と Q & A
- 第 28 回:復習と Q & A
- 第 29 回:復習と Q & A
- 第 30 回:復習と Q & A と試験

【成績評価の方法】

試験評価:100% レポート:0% 出席:0%
毎回の出席は前提です。筆記試験は、自筆ノートやプリントは持ち込み可です。丸暗記は不要です。何故そういう風に考えるのかというロジックに集中してください。毎回、配付する質問コメント用紙(出席カードではありません)にいい質問やいいコメントをした人は、ボーナス点として加算されます。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

- Jenkins, L. (2000) *Biolinguistics - Exploring Biology of Language*. Cambridge University Press.
- 酒井邦嘉(2002)『言語の脳科学-脳はどのようにことばを生み出すか』中公新書
- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味 I』くろしお出版
- 寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味 II』くろしお出版

【準備学習の指示(事前学習 60 時間、事後学習 60 時間)】

前にやったことを順次理解していかないと、だんだん、珍糞漢糞(ちんぷんかんぷん)になります。予習、復習をしてください。

【その他備考(担当教員用)】

プリント等は授業で配布します。

【備考(管理者用)】